



Title	中国における中規模酪農経営の生乳販売行動の展開メカニズム [論文内容及び審査の要旨]
Author(s)	鄭, 海晶
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(農学)
Dissertation Number	甲第14799号
Issue Date	2022-03-24
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/85222
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	Zheng_Haijing_review.pdf, 審査の要旨



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称 博士（農学） 氏名 鄭海晶

審査担当者	主査	教授	坂爪浩史
	副査	教授	東山寛
	副査	准教授	清水池義治
	副査	准教授	小林国之

学位論文題名

中国における中規模酪農経営の生乳販売行動の展開メカニズム

本論文は7章からなり、図16、表32、文献199を含むページ数106の和文論文であり、別に参考論文2編が付されている。

本研究の課題は、中国における中規模酪農経営の生乳販売行動の展開メカニズムを明らかにすることである。

2008年に小規模経営の集乳段階を中心に発生したメラミン事件以降、中国では小規模経営が利用する搾乳所の閉鎖・系列化、生乳生産の組織化・大規模化が推進されるようになった。その結果、乳牛飼養頭数100頭階層未満の小規模経営は2008年以降急減したが、同100頭以上の中規模および大規模経営は増加し、2014年にそれらの戸数はピークに達した。酪農経営の大規模化は、乳成分・乳質の改善や、国際競争力強化に寄与する一方で、大規模経営は、購入飼料と雇用労働力への高い依存度、農地の不足、経営者人材の不足等といった問題点も指摘されている。また、小規模経営で構成される養殖小区には、構成員経営の零細さに起因する出荷乳量の少なさや低乳質のため、収益性が低く、経営規模の拡大が求められている。その中で、大規模経営と小規模経営との中間に位置する、乳牛飼養頭数100～500頭の中規模経営への注目が高まっている。中規模経営の存在は、農村余剰労働力の活用、農家の増収、地域農業や農村社会の活性化にとって重要との指摘がある。加えて、中規模経営は、粗放的な小規模経営に比べて酪農経営の集約化が進み、1頭当たり乳量や乳成分・乳質が優れているといわれている。しかし、これまでの研究では、中規模酪農経営の生乳販売方式の選択と販売行動については分析されていなかった。

第1章では、メラミン事件以降、生産コスト上昇と乳価下落で酪農経営が悪化し、政府は乳業段階での規制を強化し、酪農経営の大規模化を促進したが、これによって中国の生乳生産は中規模・大規模経営への集中が進んでいることを明らかにした。

第2章では、内モンゴル自治区が中国最大の生乳生産地であると同時に大きな生乳移出

地であり、少数の大手乳業が生乳市場で高いシェアを持つ一方で、中規模乳業における生乳需要の不安定さ、小規模経営の戸数激減、中規模経営の戸数が国内で最も多いことを明らかにした。

第3章では、内モンゴル自治区の中規模経営は小規模経営に比べて酪農専門化が進んでいるため、小規模経営よりも生乳販売を積極的に行うこと、大規模経営と同様に乳業メーカーへの直接販売が中心だが、大規模経営よりも多くの販売ルートを持っているという特徴を明らかにした。

第4章では、メラミン事件以降、大手乳業の経営近代化要請に対応できた中規模・大規模経営は大手の主な生乳調達先になった一方、一部の中規模経営、小規模経営の養殖小区は、大手からの近代化要請と契約継続に経営上の有利性を見いだせず、最終的に大手との契約を解消したことを明らかにした。

第5章では、大手との契約関係の解消後、中規模経営・小規模経営の養殖小区は経営上の制約が少ない生乳の販売形態を選択するようになること、集約型の中規模経営は乳価や乳代回収の容易さを特に重視し、共同販売や経営多角化で中規模乳業への有利販売を志向していることを明らかにした。

終章では以上を総括し、中規模経営の生乳販売行動は、大手乳業への契約販売から、経営の自律性が高い中規模乳業への柔軟な販売へと移行してきたこと、中規模経営は生乳の販売が困難でない大きな生乳移出地に位置している点も重要であり、大手との契約解消後の中規模経営の展開メカニズムは、その高い自律性と立地優位を活かした有利販売を展開することであることを明らかにした。

このように本研究は、食品の安全性に係る深刻な事件が発生する度に中国政府が採用してきた、加工企業直営農場を含む大規模農場優遇政策にもかかわらず、中規模酪農経営が生乳出荷形態を柔軟に変化させ、またその中で集团的販売対応をも自発的に展開させながら生き残りを図っている姿とその展開メカニズムを解明しており、実践的ならびに学術的な意義は大きい。

よって、審査員一同は、鄭海晶が博士（農学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認めた。